

あんしん・あんぜん・元気なてらやつ 広報第11号

## 寺谷小域福祉ネットワークだより

\*\*編集・発行\*\*

発行責任者:前川 清

問合せ先:「なのはな館」

電話: 92-1481

## 小域福祉ネットワークとは？

どんな活動しているの？



日頃より、「小域福祉ネットワーク」の活動にご協力頂き感謝申し上げます。小域福祉ネットワークは「お互い様で支えあう地域社会」の構築をめざしており、更なるネットワークの輪を広げるため、多くの方の協力をお願いするところです。

少子高齢化や核家族化が進み、伝統的な家族構成が失われるなど、人のつながりが希薄化している現在、地域社会では地域の支えを必要としている子育て家庭、高齢者、障がい者などが多く暮らしています。また、生活不安、ストレスなどから自殺やホームレス、家庭内暴力、ひきこもりなどの新たな社会問題も生じてきました。こうした社会情勢の中、地域に住む一人ひとりが地域住民としてのつながりを持ち、共に支えあい、助け合う地域社会作りが求められています。

このため市原市では「誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまち」の実現を目的に市民と行政が協働により「市原市地域福祉計画」が策定されました。これを受けて寺谷地区でも2008年に小域福祉ネットワークを立ち上げ、月1回の資源回収をはじめ具体的な活動に取り組んでいます。

現在5つの支援班を作りそれぞれの課題に取り組み、活動を展開中です。



★資源回収推進班 ★子ども支援班 ★高齢者支援班 ★広報紙編集班 ★安心安全支援班

皆さんから寄せられた質問・疑問にお答えします。

## Q1

どんな人が携わっていますか？

## A1

構成メンバーは**推進委員**と称し、寺谷小学校区の各町会長、民生委員児童委員、小学校関係者(含むPTA)、青少年相談員、交通安全協会、防犯指導員、こども会、福祉活動実践者等の関係者で総勢42名です。

## Q2

活動頻度、場所、時間帯は？

## A2

**推進委員会**(全体会議)及び役員会は2ヶ月に1回開催。場所:戸田コミ、なのはな館 13:30~  
**各推進班** 資源回収:毎月1回、子ども支援:学び塾寺谷を年7回開催、高齢者支援:ふれあいいいきサロンを年8回開催、広報紙:年2回発行、安心安全支援:見守り支援者に対し毎月1回~2回実施しています。

## Q3

他の地区の小域福祉ネットワークはどんな活動をしていますか？

## A3

ふれあいサロンや見守り支援については、他の地区も同じような状況です。資源回収や学び塾寺谷は独自の取り組みと思われます。また、最近のニーズとして「日常生活支援」を取り入れている地区社協や小域福祉ネットワークがあります。これは、日常生活のちょっとした困りごと(部屋の掃除、草刈り、草木の手入れ、買い物支援等)を把握して、地域での支えあい・助け合いを行う活動です。寺谷小域ネットワークでも現在この検討に着手したところです。





## 安心生活見守り支援事業

## 福祉講演会

寺谷地区には医療機関がないため、救急車の到着を待つ間の救急処置を学ぶため、令和4年10月29日戸田コミュニティセンターで福祉講演会が開催されました。

救急車を呼ぶための判断、救急車が到着するまでの対応や、症状別の初期対応、心肺停止状態の人に実施する心肺蘇生法（胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの使い方）などについて、市原市消防局南総消防署からの講師による講義を受けました。

年末年始にかけて、特に餅をつまらせるなどの緊急時には、咳をさせる、背中をたたかすなどして、吐き出させると良いそうです。救急隊で活動されている講師のお話によると、寺谷地区にはがまん強い方が多く、具合が悪くても1日2日様子を見てから救急車を呼ぶ、等の方が多くいます。

重症化の原因にもなるため、普段とは様子が違う、明らかに顔色が悪い、ひどく痛がるなどの症状がある場合は、ためらわずに119番！救急車を呼んで欲しいとのことでした。

**みなさん、具合が悪い時は遠慮せずに救急車を呼びましょう。**



## 安心生活見守り支援事業

## 安心訪問員座談会の報告



皆さん安心訪問員をご存じですか？高齢者やお一人住まいの方などの中で訪問して欲しいとのご希望をいただいたお宅を定期的にご訪問し、ご様子に変わったところはないかを確認しつつお話を聴いたりする安心生活見守り支援事業の担い手です。訪問して何だか気になるなど感じたら地域の民生委員や市原市社会福祉協議会などと連携して対応します。

去る11月13日、南部保健福祉センター（なのはな館）において、安心訪問員による座談会が開催されました。この事業が始まって11年が経過する中、グループ討論形式で今後の活動の課題や方向性を明らかにすることを意図しています。座談会は7名ずつA・Bの2グループに分かれて約60分の討議と、グループごとに討議内容をまとめて各10分程度の発表がありました。テーマは「訪問を希望する方が中々増えない状況に対してどのような対策を施すか」という主旨でした。適切な解決策が見つからない難問です。各グループとも、これまでの見守り支援活動で得た気付きや悩みなどを交えながら、テーマに沿って課題を出し合い方策を考え、これからどうすべきかを熱く語り合っていました。

安心訪問員はご希望が無ければ訪問しませんが、

安心訪問員の人となりを知っていただかなければ訪問の希望が集まらないジレンマがあります。安心生活見守り支援事業と安心訪問員についてお知らせしてジレンマをなくし、向こう三軒両隣り、と言われるご近所間のつながりを含めお住まいの方々や町会自治会・支援組織・行政などとも交流・連携を深めて、見守り支援活動を推進していこう、と思いを新たにして座談会を終了しました。







# 資源回収実績に黄色点減



資源回収推進班

## 1. 資源回収は小域ネットワークの重要な活動財源

昨年度の小域ネットワーク予算収入は約130万円その内、**資源回収収益金の占める割合は80%**です。

この事業収入を得て、各種事業へ取り組みが可能となり、いまや当事業は、小域ネットワークの重要な活動であり、そして誇れる事業です。

## 2. 各団体への活動助成

昨年、収益金の92%は各団体活動を支援する助成金として、還元しています。



## 3. 資源回収事業の現状

昨年同期との比較で、**回収量は1,000キロの減**です。近年減少傾向が続いています。収集品目の中で特に減少が続いているのは、「紙類」であり、中でも単価の高い(5円/kg)「古新聞」が目立ちます。業者買い取りの増額は、品目に合わせた分別で稼ぎたいところです。

## 4. 活動助成金減額の検討か！

表題の『黄色点減』とは実績の右肩下がりと共に収益金の減額が続く、このまま回復傾向が見られない場合は、収益金を超える支出はできませんので、再度の“活動助成金減額”を検討せざるを得なくなります。

今年度の予定はあと3回です。今後とも資源回収事業を地域の皆様で支えていただき、一層のご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。

## ご存知ですか？ 資源物で助成金！

家庭から出る燃えるごみの内、約12%は資源物に分類できると言われ、その大事な資源物を収集日に出すことで**再資源化**されています。

資源物はごみではありません。

そこで、小域ネットワークでは毎月第1日曜日(原則)を収集日として、積極的に収集事業に取り組み収益金の一部を次のように活動助成金として**還元**しています。

町会・自治会	年額600円(1世帯当たり)
こども会(1人当たり)	寺谷小域管内に居住する児童に年額800円
PTA	こども会への助成金と同額

諸事業は、「資源物の収益金」で活動しています。資源物は小域ネットワークへ出していただき引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

## 活動報告

### 子ども支援班

### 寺谷分校跡地の草刈りをしました

毎月行われ回収された資源物(缶、ペットボトル、瓶)の集積場所として使用している寺谷分校跡地に1mを超えた雑草、周辺の竹・ツタなどの刈り取りを寺谷地区町会と寺谷小域福祉ネットワーク合同で、6月12日(日)と9月25日(日)に寺谷地区の各町会、自治会から延50数名と多数の協力者が集い、予定時間の30分前位から実施しました。(毎回皆さん朝が早い)

皆さん草刈りのベテランばかりで、予定時間の半分程で終了しました。終了後に跡地隣の大鐘さんから飲み物などの多数の差し入れがあり、ありがたく頂戴致しました。寺谷地区会長をはじめ各町会、自治会の協力者の皆さん、大鐘さん、ありがとうございました。



田植えの様子



稲刈りの様子

### 笑顔で稲刈り体験を行いました

寺谷小学校では年間に6~7回程度、小域福祉ネットワークやPTAの方々の協力を得て、「学び塾・寺谷」という、竹とんぼ作りやクリスマスリース作り等の体験活動を行っています。その「学び塾・寺谷」の中でのメインイベントが、全校児童が参加する、「田植え体験」と「稲刈り体験」です。4月23日に植えた稲が、地域の方の管理の下、大きく実り、9月5日に一人一株ずつですが稲刈り体験を行いました。刈り取った稲を見ながら「これが、ごはんになるんだ…」と子どもたちは感慨深げでした。その後、コンバインで刈り取っていただき、約90kgの収穫となり、精米したお米は1人1kgずつ持ち帰りました。普段何気なく食べている、お米の大切さを知ることができる貴重な体験ができました。ご協力を頂いた皆様、ありがとうございました。(寺谷小学校 杉本教頭先生)





# 私の散歩みち

## 第2回 西国吉田圃と 神社・お寺の道

西国吉台 H.O

コース: 西国吉台団地の

東入口東から

中央入り口まで

所要時間: 1時間20分

歩数: 約7,800歩

距離: 約5km 實銭持参



根元神社



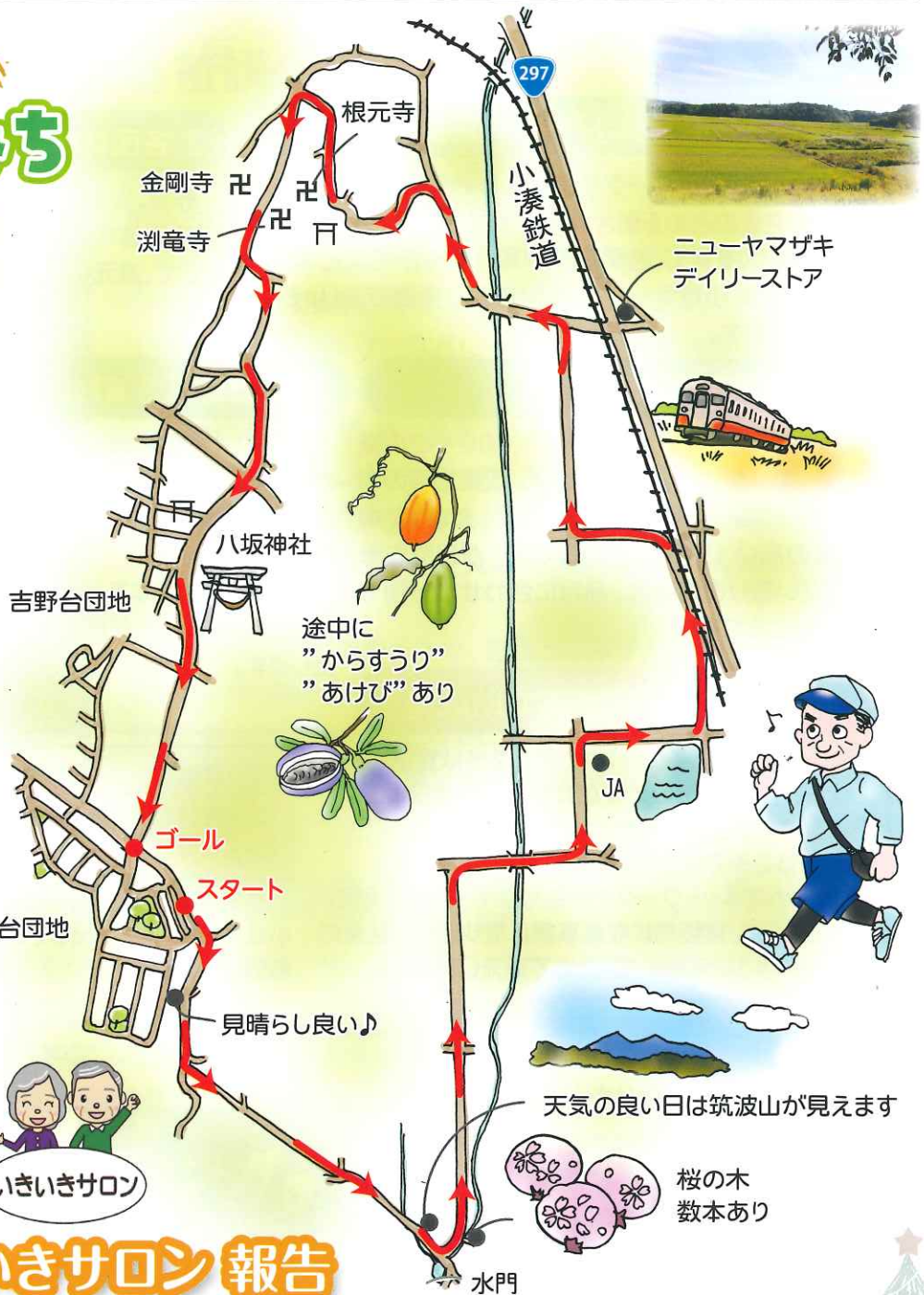
高齢者支援班

吉野台団地

西国吉台団地



いきいきサロン



# ふれあいいきいきサロン 報告

新型コロナウイルス感染には勝てず、2020年2月を最後に休止としてきましたが、年度初めに検討した結果、少人数・開催時間の短縮などの工夫をして年間8回の「いきいきサロン」実施計画を立てました。半期が終わり今回は吉野台自治会館でのいきいきサロンを報告します。10月28日(金)吉野台団地にお住いの自治会長さんを含め20名の皆さんに参加していただきました。

小域福祉ネットワーク前川会長の挨拶で始まり、歌をうたいながら健康体操・タオルを使った体操・歌集を見ながら合唱・タオル投げ・フーセン投げなどで楽しみました。最後に南自治会長の挨拶で終了となりました。皆さんいきいきと身体を動かし、笑顔が絶えず楽しんでもらえたと思います。

高齢者支援班一同



## 編集後記

今年から寺谷小域福祉ネットワークの推進委員として活動に加わり、広報誌編集班員になりました。わからないことだらけで前川会長の始め先輩の方々に伺いながらのスタートですが、広報誌編集班のみならず本会の活動に風を吹き込もうと突っ込み処を探しています。

今号の巻頭では、読者の皆様に寺谷小域福祉ネットワークに携わる人たちについて身近に感じて戴きたくて、日ごろの疑問を会長にぶつけました。次号以降では5つの柱にも視点を変えた問いかけをして、お伝えしていきたいと思います。

広報紙編集班:高垣 仁



寺谷小域福祉ネットワーク

\*\* 編集・発行 \*\*

発行責任者：前川 清

問合せ先：「なのはな館」

☎92-1481

# 安心生活見守り活動の紹介

～ 住みなれたまちで安心して暮らすために ～

◆寺谷小学校区小域福祉ネットワークでは、地域の「安心訪問員」による、高齢者などの見守り支援活動を行っております。

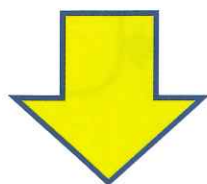


「普段は元気だけど、もしもの事があったら・・・」と不安な方、  
「話し相手がほしい」と思っている方など、見守りを希望される方は申し出ください。

寺谷地区の皆さん

《こんな **悩み・不安** はありませんか?》

1. 健康や病気への不安がある
2. 老化で判断力が低下した時の対応をどうするか
3. 趣味や知識が共有できる友人を増やしたい
4. 今後のこと(遺言や相続など)を準備したい
5. 自宅の防犯対策が不安
6. その他、様々な悩みや不安を抱えている方



## 見守り支援活動

このような日頃の生活に悩みや不安があり、希望する寺谷地区の方に対し、地域の「安心訪問員」が定期的に家庭を訪問し、相談ごとがあれば相談にのり、同時に安否を確認する活動です。

# 見守り支援活動



## 1. 安心生活見守り活動は何のために？

- ・高齢者の方などが、孤立しないように訪問活動などで、見守ります。
- ・高齢者の方などを訪問することによって、様子の変化を見守り、事故などを未然に防ぐことができます。
- ・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるように、地域全体で支援します。

## 2. 見守りの対象となる方

- ・概ね 65 歳以上の高齢者世帯で暮らしている方（日中独居になる方も含みます。）
- ・年齢にこだわらず、健康に自信がなく悩み事を抱えている方。

## 3. 活動の主な内容

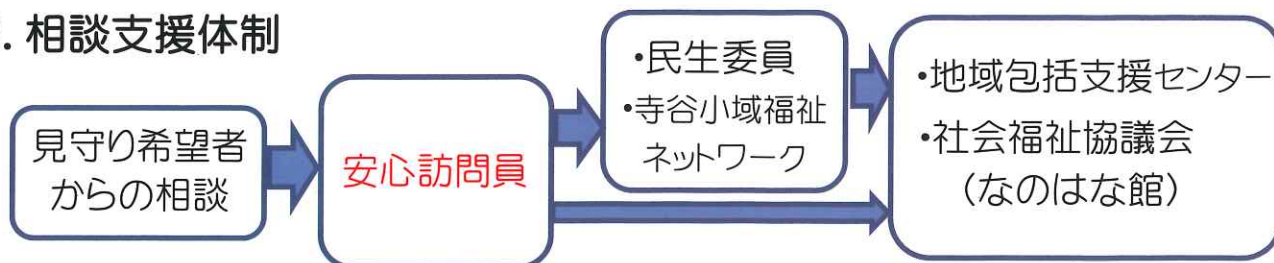
- ・対象者宅を月 1 回～2 回程度訪問し、様子を見守ります。
- ・インターホンからの対話でも大丈夫です。
- ・相談ごとがあれば相談にのり、お話相手になります。



## 4. 訪問員

- ・安心訪問員の基礎研修を受講し、市原市から発行された「**安心訪問員証**」を持参します。
- ・見守り希望者と同じ町会・同じ自治会から安心訪問員を選び、**原則 2 名以上**で伺います

## 5. 相談支援体制



## 6. 問合せ先・申し込み先

- ・社会福祉協議会（なののはな館） 関 チームリーダー ☎ 0436-92-1481
- ・寺谷小域福祉ネットワーク 前川 会長 ☎ 090-6149-1946
- ・この件で知りえた「**個人情報**」は、**厳守**しますので気軽にご相談ください。